

The 13th IAGG Master Class on Ageing in Asia での学びと出会い

北村 美渚

(日老医誌 2025 ; 62 : 335-336)

2025年5月23日からの3日間、マレーシアのクアラルンプールで開催されたThe 13th IAGG Master Class on Ageing in Asiaに参加させていただきました。

私は徳島大学大学院医歯薬学研究部地域医療福祉学分野に所属する社会福祉士、歯科衛生士であり、医療ソーシャルワーカーやデイケアにおける歯科衛生士・介護業務の経験を踏まえ、現在は地域包括ケアシステムや通いの場、健康状態不明者、生きがい等をテーマとした研究活動を行っております。今回のテーマである“Integrated care”は、まさに私の研究テーマと合致し、アジアにおける先進的な知見を学ぶまたとない機会になると考え、自分自身の国際化を図ることを目標に掲げ応募いたしました。

プログラムは、参加者全員の自己紹介に始まり、7つのご講演、グループでの症例検討とポスター発表がありました。フレイルや認知症をはじめ、アジアにおける高齢化の現状、高齢者を支える家族や社会構造の変化、口腔・嚥下機能の評価・訓練など、非常に幅広い分野のご講演を拝聴し、大変学びの多い時間となりました。

グループでの活動では、症例をもとに必要な支援や課題について議論を行いました。虐待の可能性や意思決定能力、アドバンスケアプランニングなど、medico-legalな視点での話し合いがなされ、各国の制度の違いや共通する課題についても意見交換を行うことができました。最終日のグループ発表では、私たちのグループEが優秀賞に選ばれ、非常に光栄で貴重な経験となりました。先生方の自信に満ちたプレゼンテーションや洗練されたスライドにも感銘を受け、多くの刺激をいただきました。ポスター発表の際には、初めての英語での発表に緊張しながらも、tutorの先生からの優しく明快な質問とアドバイスに支えられ、無事に発表を終えることができました。



グループEのメンバー



Day1の夜

た。

宿泊先では、ベトナムの歯科医師の先生と同室となりました。シャワーが温まらず二人で震えながら過ごした

ことや、ポスター発表の準備に焦った夜など、思い出深い出来事がたくさんありました。丁寧にコミュニケーションを取ってくださり、感謝の気持ちでいっぱいです。最終日には手紙を交換し、再会を約束しました。国際的な交流を通じて他国の文化や価値観を知り、それを踏まえて学術的理解を深めることの重要性を実感した3日間でした。今後は、さらに研究力と英語力の向上に努めてまいります。また、日本からの素晴らしい先生方とも出

会うことができ、研究や臨床に関する情報交換に加え、現地での移動や生活面まで多くを共有させていただき、大変心強く、有意義な交流をさせていただきました。誠にありがとうございました。

最後に、このような貴重な機会を提供してくださったIAGGならびに日本老年医学会の関係者の皆様に、深く感謝申し上げます。